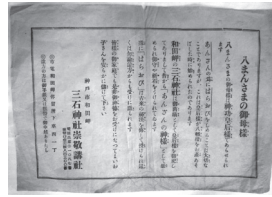




腹帯と三つの石の入ったお守り



大正年間の神徳高揚ピラ



安産と三石神社

三石神社 宮司 小林 友博

発行所
 三石神社社務所
 神戸市兵庫区
 和田宮通3丁目2-51
 TEL (078)671-2531
 FAX (078)671-7667
 E-mail info@mitsuishi.or.jp
 URL http://mitsuishi.or.jp

- ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。
- お伊勢さんのお神札(神宮大麻)と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。
- お神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉献を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、神社には祀られているご祭神によるご神徳(ご利益)があります。当社のご祭神は主祭神に神功皇后相殿に天照皇大神・素盞男大神を祀り、そのご神徳は安産・厄除開運・家内安全・学業成就・勝運合格・病氣平癒・健康長寿・商売繁盛・会社事業所安全繁栄・陸海交通安全・競技戦勝等々の御利益があります。その内とりわけ主祭神に神功皇后を祀っている全国の神社は、当社の如く安産の御神徳を謳っている。

その出典は、八世紀成立の『古事記』(仲哀天皇の条)・『日本書紀』(神功皇后の条)・『筑前国風土記逸文』(芋渚野、兒饗石の条)・『萬葉集』巻第五、八一三・十一月八日還る使の大監に附すの条等に見える。『日本書紀』には新羅から凱旋の後、筑紫の宇瀾(福岡県糟屋郡宇美町・宇美八幡宮。応神天皇の条には蚊田とある)で応神天皇を出産したことのみに記されているが、『古事記』では征討後臨月となったので、お腹を鎮めようと石を取って裳の腰に付け、筑紫国宇美で出産され、その石は伊斗村(福岡県糸島市二丈深江・鎮懐石八幡宮)にあるとしている。石を身に付けたりするものは、古代より磐座信仰があるように石には霊力がある信仰に基づいている。ではその石はどのようなものであったのか、『筑前国風土記逸文』に兒饗石(皇子産の石)として「石二顆」と見え、その大小の石の寸法等が記され、『萬葉集』でも大小二つの石の寸法と、裳に付けた石を鎮懐石としている。本居宣長は『古事記傳』(三十之卷、詞志比宮上巻)で、「此の石は、長さ一尺(三〇、三cm)余りもありけるを、御腰にいかで着け給ひけむと疑ふ人もあるべけれども、彼の大后の御世より、奈良の宮のころまでは、五百年あまりも経つる時なれば、小さかりしが、然大きになりけむこと、何か疑はむ、石も多くの年を経れば、漸に大きになること今もつね然るをや」と、宣長らしからぬ説を論じているが、このように神功

皇后が臨月に際し、鎮懐（心をしづめること）として石を身に付けて出産したことから、安産の御神徳が生まれたものである。

当社の安産ご神徳については、『摂津名所図会』（寛政八（一七九六）年刊行）の和田三石の項に、「三石祠は和田新田にあり。産婦祈願すれば、臨産に難なしとぞ」が初見であり、後の『西摂大観』（下巻、明治四十四（一九一）年十一月発刊、第八地名考究の資料、神戸市地名考の三石通の項）に、「産婦祈願すれば臨産に難なしと伝えていた」とあるのも前書を踏襲したものである。しかし『兵庫縣矢部郡地誌』（明治四十六（一九一三）年一月調）の神社所在地であった今和田新田誌に、享保八（一七二三）年に今和田新田村が設けられてから一九〇年経ても、「戸数三十五戸、人口八十二人、牛一頭」と見えるところから、郡内外から多くの産婦が参拝したとは考えられない。

ところで、大社等大規模神社は別として、全国の各神社に神職（神主）が常任し神明奉仕を始めたのは明治維新以降であり、当社も明治二十年代に至って神職が常任した（『先賢小傳』昭和三十六（一九六一）年十一月刊行）。そのような歴史背景を経て、明治時代から、各神社も社務運営と神徳宣揚上ご利益を広報する努力がなされた。

当社は、神功皇后が当地の三つの石を身に付けて安産をしたと伝えられ、大正六年記の「三石神社誌」伝説の項によると、「昔、神功皇后三韓を征伏し給はんとして、此の和田岬より舟出し給ふ。其の時三個の石を取りて腰に挟み、事畢るの後安産あらせられん事を祈り給ひし所に社を建てて三石神社と崇め奉り、孕婦祈願すれば安産するなりとて神社の小石を請ふて守りとす」と見える。『筑前国風土記逸文』（神石の条）には、神功皇后が身に付けた神石で腹と心を撫でたところ「み躰忽ちに平安けかりき」となり、更に神石は「三段」（二石が三つに分かれた）に成ったと見え、安産の石は三石であったとしている。このような伝承もあって、三石という神社名からも、安産御守りに白黒の三つの石を用いたとされる。陰陽配置によるその小石の色が白二個であれば男子、黒二個であれば女子を出産するといひ伝えられ、現在も良く当たる」と好評である。

この頃から当社の安産御守りには、神功皇后が石を付けられて安産したように、三つの小石を用いており、また、神社崇敬講社の名で「八まんさまの御母様（おかあさま）」と題し、「八まんさまの御母様は神功皇后様であらせられます あんざんの為にはらおびをしめることは大切なことであります、これは皇后様が八幡様を御産あそばした時に始められたのであります、和田岬の三石神社は御旧蹟として皇后様を温祀してありまして昔からあんざんの神様として崇められ御守や祈石をうけられています 殊にはらおびは古来の秘法を修して授けられ近くは勿論遠方からも受けに詣られます 皆様の御家庭でも是非御神徳をお受けになってよいお子さんを安らかに儲けて下さい」と記した安産ご神徳広報じらを氏子内外に配布し、ご神徳高揚に努め、翌大正七（一九一八）年の年間安産御守りは一、八〇〇体という多くの御守りを授与している（神社予算調書・収入の部）。

そして大正十四（一九二五）年十一月には、神功皇后安産縁の地として、昭和天皇が皇太子時代に良子妃殿下（香淳皇后）が成子内親王（照宮）をご懐妊された時、安産祈願を奉仕して東宮御所に安産腹帯・お守りをご献上し（『社務日誌』）、同年十二月二十七日には、珍田捨巴東宮大夫伯爵より「陳者曩二御安産記念ノ為御安産御守等献上相成候處御満足ニ被思召候」との御沙汰書を拝受した。更に昭和時代に入った昭和二（一九二七）年八月にも皇后陛下のご安産帯とお守りを献上している。

神職による安産ご神徳の宣揚は続けられ、安産の神徳宣揚のポスターを冬の夜中遠く暮合（現、神戸市中央区）の町まで貼りに行ったり、三官社（生田・長田・湊川の三神社）の渡御式の最後尾に御供する機会のおりには二万枚の神社宣伝じらをも撒いている（『石路の迹 社務日誌が語る和田岬の終戦前後』の杉村伸氏の序文）。このじら撒きに関し、前記三官社宮司から誉められ、笑われ、叱られたとの思い出話も載せられている。このように当時の神職も安産のご神徳宣揚に努めていたことが知られる。その効果もあって当社へ多くの妊婦たちの安産祈願参拝が定着していった。戦時中の昭和二十（一九四五）年三月十七日未明の神戸大空襲により社殿等は烏有に帰し

たが、『社務日誌』四月三日の条に、「加古郡阿閉村野添池本氏三女加代 安産礼参と戦災見舞金ヲ差出サル 真ノ崇敬者ナリ」との記事も見られ、当時でも遠方からの安産参拝があったことが知れる。また終戦直後の八月二十七日の条にも「帯祈祷アリ」と見られる。

その後の官公書である『神戸の史跡』（神戸市教育委員会、昭和四十二（一九六七）年三月発行）には、「神功皇后が三つの石をもって安産を祈られたところ」と記され、『由緒あるまち兵庫 町名・史跡・民話をたずねて』（兵庫区役所広報相談課、昭和五十（一九七五）年十一月発行）には、「三石」というのは、神功皇后が三つの石をもって安産をいのつた、一般書の『神戸の伝説』（昭和五十一年十二月発行）には「和田岬の田んぼの中に、三つの石がころがっていた。神功皇后が三韓へ出兵されたとき、お腹には皇子がやどっていた。そこで三個の石を腰にはさんで海を渡つたところ、戦いのち帰国して九州に帰つたときに安産であった。その三個の石がこれだといひ、妊婦すればこの三石に参ればよいと信じられていた。のちに三石神社として祭られてから、妊婦はこの神社の境内にある小石三つをひろつて帰り安産のお守りにしていた」など、地名、町名・伝説等の書籍の由緒にはいつの頃からか、神功皇后が当社の石を身につけた安産伝承が記されるようになった。

平成十三（二〇〇一）年六月、皇太子妃雅子殿下の御安産祈念を奉仕し、腹帯・三つの石の入ったお守りを宮内庁に献上した。無事愛子内親王殿下ご誕生の後の、平成十八（二〇〇六）年十一月に野村東宮大夫より「皇太子妃殿下におかせられますは、貴神社の御熱誠な御祈願のことと御想起になられ、御礼の思召をお伝えするようにとの仰せでございます」との御召御礼状を賜った。翌十四年には神社ホームページを開設し、安産御神徳紹介コーナーも設け神徳宣揚に務めた結果、三つの石で出産する子供の性別が占えると今日に至るまで遠近より多数の妊婦さんの参拝を頂いている。

氏子崇敬者の皆様もご親族・知人の方々に御神徳高い三石さんの安産参拝（含 祈祷）をお勧め頂くよう宜しくお願い申し上げます。

平成二十六年十一月

七五三詣祈祷齋行

十一月中、七五三詣祈祷を齋行した。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拜殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やおモチャ・風船・おみやげセット等の他にキャラクターバック等の記念品もお渡しして大変喜ばれました。

期間中の土・日・祝日には会館二階に特設写真スタジオを設け、記念写真を撮っていただけるよう設備しています。

また、お宮参りにもご連絡頂ければスタジオを設備いたしております。



特設スタジオでの記念写真

スタジアム芝張替竣工式齋行



スタジアム内での神事

十四日、ノエビアスタジアムである神戸ウイングスタジアム(株)の芝ピッチの張替工事竣工祝安全繁栄祈願祭が齋行された。

神戸ウイングスタジアムでは、毎年九月に夏から冬芝への芝張替えを行っていたが、本年は二〇一九年に日本で開催されるラグビーワールドカップ（四年に一度行われる「ラグビー世界一」を決める大会）の神戸試合会場誘致活動として、十一月一日に開催されたラグビーの日本代表と、ニュージーランドの先住民族マオリ族代表のラグビーチームであ

るマオリオールブラックスとのリポ
ビタンDチャレンジカップ2014
が開催(当日は二万人を超えるラグ
ビー試合最高入場者を記録)された
ため、試合後の芝ピッチの張替え工
事となった。

この度は芝ピッチ全面の内、約一、
二〇〇㎡の冬芝(ケンタッキーブ
ルーグラス)が例年通り(株)大林組の
施工により執り行われ、当日は神戸
ウイングスタジアム森社長をはじめ
社員・工事関係者も参列し、各代表
が玉串奉奠して今後の安全と繁栄を
祈願した。

平成二十六年十一月

御崎南ビル大規模修繕工事安全祈願祭齋行

五日、氏子内浜山通二丁目の御崎
南ビル大規模修繕工事安全祈願祭が
齋行された。

御崎南ビル管理組合は一六四世
帯(店舗八・住宅一五六)で組織さ
れ、鉄筋鉄骨コンクリート造十四階
建(東西各一棟)の御崎南ビルは築
四十五年となるため、補修工事等委
員会を立ち上げ、屋上・外壁下地・
廊下等の防水をはじめ、鉄部の内外



安全祈願祭神事

塗装や各住戸玄関ドア取替等々の
大規模修繕工事を執り行う事とな
った。

当日は中央駐車場を齋場として、
仲田管理組合理事長をはじめ同役員
また改修設計管理の建築設計工房真
砂、施工業者の旭技建(株)の関係者
約二十名が参列し、各代表が玉串奉
奠して平成二十七年六月までの工事
安全と今後の住民安寧をも祈願した。

平成二十七年一月

年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭齋行

正月三日、「氏子崇敬者繁栄祈願
祭」が総代・氏子崇敬者三十一名の

参列のもと厳かに齋行され、今年一
年の参列者各位は元より、氏子崇敬
者更に各事業所の安寧と繁栄を祈願
した。

本年の神前奉納は、阪神淡路大震
災二十周年・終戦七十周年を迎える
ので、虚無僧による慰霊と鎮魂の献
奏とした。

神前奉納者は全国霊場巡拝虚無僧
で、普化正宗明暗寺分道場導主の谷
林白毫先生と同志の山根白虹先生で、



参進の虚無僧姿

まず白毫先
生によつて
中国・唐の
高僧普化禅
師の振鐸を
尺八の名
人・張伯居
士が普化振
鐸として作
曲し、日本
に伝わった
唯一の尺八
古典本曲で
ある「嘘
鈴」の献奏
があり、続
いて白毫・



尺八奏奉納の神前で

白虹両先生によつて、京都紫野大徳
寺四十七世の住職の一休禅師(一休
和尚)の作と伝えられている「紫の
曲」が合奏献奏された。



鳥居前での記念写真

尺八で鐸音の霊妙を彷彿させる
「嘘鈴」や、子守唄のような懐かし
い曲調に一休和尚の人柄を思わせる
「紫の曲」に参列者も盛大な拍手を
送った。

式典後、参列者一同破魔矢を持ち、
鳥居前にて記念写真を撮り直会に
入った。

阪神淡路大震災二十周年復興奉告祭並びに
国土平安祈願祭奉仕と記念講演会参加

十七日、彌宜が阪神淡路大震災発生
の午前五時五十六分に合せての兵庫
庫庫神道青年会主催の阪神淡路大震
災二十周年復興奉告祭並びに国土平
安祈願祭に出席した。

当日は激震地で多大な被害をこう
むった長田区二葉町の市立地域人材
支援センター（旧二葉小学校）を会
場として、青年神職が祭員となり、
神籬祭壇を設け復興奉告並びに国土
平安祈願を齎行し、祭典中には浦安
の舞も奏せられた。

ボランティアの協力も得て祭典終
了後に開始した炊き出しに、参列し
た地元の被災者達も当時を思い起こ
し、復興に取り組んだ二十年に感慨
を新たにすると共に今後の平安を
誓っていた。

更に彌宜は、二月二十六日に中央
区のホテルオークラ神戸で開催され
た復興記念講演会にも参加した。同
講演会では元NHKアナウンサーで
千葉県で宮司を務める宮田修氏が、
「その日私は」を主題にNHK大阪
放送局勤務時代に震災の第一報を自



阪神淡路大震災二十周年復興奉告祭並びに
国土平安祈願祭

が交わされ、この有
意義な講演会に、一
般など約二二〇名が
参加した。

尚、兵庫県神道青
年会とは、全国津々
浦々の神社に奉職す
る若手神職の集いで、
先祖から受け継いだ
伝統を大切に守りつ
つ、より良い未来を
見据えて、道義国家
再建に向けて様々な

活動を行っている神道青年全国協議
会の兵庫県における単位活動組織体
です。

平成二十七年四月

銅板奉納者掲示板をプラ板に変更

当社の社殿は大東亜戦争中の昭和
二十年三月十七日未明の神戸大空襲
により焼失したが、氏子崇敬者の協
賛により昭和三十八年に復興再建し
た。その際旧社殿は瓦葺であったが
銅板葺に変更施工した。銅板の寿命
は約五十年と言われ、将来銅板屋根
の葺き替えを行わなければなりません

ん。

当社殿の銅板枚数は約七千枚が必
要とのこと。そこで平成十四年十月
より「社殿屋根吹替え用銅板奉納事
業」として、氏子崇敬者の方々から
広く銅板奉納（一枚、二千円）を開
始した。銅板を奉納して頂いた方々
の氏名・会社名等を木製の板に記し
て境内の掲示板に順次掲げておりま
したが、風雨による年月の経過に依
り奉納者名が判読できなくなつた
ため、この度プラスチック板に書き換
え、多くの参拝で賑わう五月例大祭
前の四月二十四日に現在既に銅板奉
納を頂いた全ての方々の氏名を新た
に掲示させていただいた。銅板奉納



プラ板に書き換えられた社殿銅板奉納者掲示板



「神社新報」の復興記念講演会記事
シヨンも行
われ、災害
時に神社・
神職に求め
られる役割
や日本人と
しての自然
への畏敬に
ついて意見

を頂いた参拝者からも良く氏名が読めると好評である。

ところで当社殿の銅板を調査したところ、高度経済成長前期の頃に生産された銅板で、質も良く又厚みもある銅板を用いているようで、六、七十年の耐久性があると判断されたが、いずれ銅板葺き替えをしなければならぬので、現在も銅板奉納事業を継続している。

氏子崇敬者の方々も、社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残して頂き、更なる三石大神様のご加護を賜りますよう、今後とも銅板奉納を宜しくお願ひ申し上げます。

平成二十七年五月

例大祭と神幸式齋行

二十二日金曜日、午後六時からの例祭には、区内神職のご助勤奉仕により、総代始め氏子崇敬者二十三名の参列のもと、例年通り巫女による神前神楽も奉納して厳肅に齋行した。後、会館二階にて三菱重工神戸造船所の清水総務課長の来賓挨拶を賜り、乾杯、直会に入った。

二十三日土曜日午前八時より、各



スタジアム前での記念写真

地区お旅所の入魂修祓式を齋行し、午後一時半より、地区総代・氏子役員・自治会関係者の指導により、子供みこし四基が神輿唄を声高らかに唄いながら氏子町内を巡幸した。本年より和田岬小学校PTAのご協力により生徒各位に子供みこし参加募集用紙を配布した。その効果宜しく例年より子供の参加が多く見られた。

尚、例年通り事故の無きよう各子供みこしには自社雇のガードマンや、兵庫警察署派遣の多数の警察官らが警備と交通整理にあたった。

二十四日の日曜日五月晴れに恵まれ、例大祭最大の神事である神幸式が賑々しく齋行された。午後二時前より猿田彦会片田会長の御子息で、兵庫区笠松通七丁目の片田琢己君

(十八歳) 扮する猿田彦の勇壮な踊りに続き、直垂装束姿の総代や、和田岬小学生達の直垂装束の神宝持役十四名、吉田中学校生男女四十八名による本神輿昇上げ役、化粧をした宮司太刀持役である兵庫区笠松通五丁目の渡辺宏正君、そして各地区子供みこし四基、総勢約二〇〇人の神幸式大行列が発発し、約二時間半かけて氏子内を巡幸した。沿道見学の氏子の人達も、黄色い声を張り上げる女子中学生の参加した本神輿行列に元氣と希望をもらったと感謝していた。

午後六時から、会館二階にて神幸式奉仕の総代始め氏子三地区の人達

Advertisement for 'Kansai Shopping Street Monthly News Magazine' (第5号) featuring 'かままん' and 'かかムラ'.

笠松商店街かわら版

又猿田彦会員達の出席による合同直会が開催され、無事神幸式が斎行できた喜びで盛り上がっていた。

尚、当社の例大祭神幸式に関する記事が、地元の笠松商店街振興組合によって五月二十九日発行された、神戸和田岬笠松商店街かわら版「かさまつ商店街マンスリーニュースかさまん」に掲載された。内容は猿田彦の踊りと中学生の担ぐ神輿写真のほか、「歴史・文化が根付くまち三石神社神幸式」と題し、「兵庫区に多数点在する史跡を結ぶ兵庫津の道。歴史探索の道は和田岬ではじまり、中でも笠松商店街にほど近い三石神社は、まさにそのスタート地点となっております。五月二十四日、この三石神社の神幸式が執り行われました。天狗の顔をした神様の先導により、太鼓や神輿が練り歩きます。我々商店街のメンバーも、神様が歩く道を塩で浄めるなど、いくつかの役割を担わせていただきました。長い一日でしたが、祝福された氏子地域は、今年も良い一年が過ごせることでしょう。」の記事も掲載されていた。

平成二十七年六月

大和ミュージアム等見学

氏子崇敬者親睦旅行

本年は終戦七十年であり、我が国の明治以降の近代化の礎となった造船を中心とした科学技術を学ぶと共に、戦艦大和建造にいたった歴史と戦後の平和の大切さを認識し、未来に夢と希望を抱いていただけたらと大和ミュージアム見学の旅行を企画した。

七日、宮司を含め氏子崇敬者二十九名（北部氏子会十四名・南部



大和ミュージアム展示の十分の一の戦艦大和



大和ミュージアム前での記念写真

氏子会七名・東部氏子会四名・猿田彦会二名・崇敬者一名）の参加のもと広島県呉市の大和ミュージアム・海上自衛隊呉資料館（てつのくじら館）等を見学する日帰りバス旅行を実施した。

先ず時間の都合上、大和ミュージアム近くの、昭和の高度成長期の懐かしさを再現した「ハイカラ」な雰囲気を感じさせる食事処である「呉ハイカラ食道・日招きの里」で、海軍さんの肉じゃが・鯨カツ等の呉海軍伝統の海軍料理を満喫した。食後大和ミュージアム前で、写真屋さん

の海軍拳手敬礼ポーズの勧めもあつて、敬礼をしつつ集合記念写真を撮った後、同館内と海上自衛隊呉資料館（てつのくじら館）等を各自自由に見学した。

日帰りの遠距離旅行であつたが、最高齢八十九歳を始め八十歳代四名、七十歳代十名の参加者は疲れも無く参加してよかったとのご意見も頂戴し、無事帰神した。

新工場地鎮祭斎行

十二日の大安日、三菱電機(株)神戸製作所構内で五十四名参列のもと、二一七棟の新工場建設起工地鎮祭が斎行された。

この新工場はプラント向け制御装置の組立・試験エリア拡大の為に旧建屋を解体し、鉄骨造六階建の機械製作工場を建築するもので、当日は建築主の三菱電機(株)菊池常務執行役社会システム事業本部長が穿初の儀施工者である清水建設・東急建設・菱神テクニカ共同企業体の代表として清水建設(株)倉執行役員神戸支店長が鎮物埋納(鍬入れ)の儀を執り行つた後、前記関係者を初め各会社代表者が玉串奉奠して、長期に亘る工事

の無事故・無災害を祈願した。
尚、神酒拝戴しての祭典後には、
建築主・設計施工共同企業体の各代
表者の挨拶も行われた。



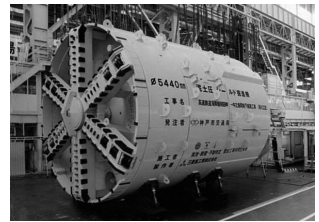
二一七棟新築起工地鎮祭

平成二十七年七月

シールド組立工場竣工安全祈願齋行

七日、三菱重工(株)神戸造船所構
内でシールド組立工場竣工安全祈願祭
が厳粛に斎行された。

三菱シールド式トンネル掘削機を
製作する三菱重工メカトロシステム
ズ(株)は、この度二〇二〇年開催の東
京オリンピック関連事業である国内
施工最大径(一六、一m)の東京外



過去に製造したシールドマシン
かく環状道
路本線向け
のシールド
マシン二台
の受注を受
けたが、厳
しい納期対
応により従
来工場だけでは工事消化が困難と
なったため、新たに組立工場を設け
たものである。

当日は施主である三菱重工メカト
ロシステムズ(株)渡邊取締役社長を始め
三菱重工(株)、施工者の近畿菱重興
産(株)の各代表者が玉串奉奠して、新
シールド組立工場の竣工を祝すと共
に、今後の組立工事の安全を祈願し
た。

尚、この新組立工場は一六、一m
の国内施工最大径のシールドマシン
の組立てが終えれば、リニア中央新
幹線などの大プロジェクト向けのマ
シン組立に継続して活用されるよう
である。

夏越祭(夏祭り) 齋行

十七・十八日の両日、相殿に祀る
素盞鳴大神の夏越祭を斎行した。



神前奉納の琉球舞踊



奠した。

更に、境内に設けた「大茅の輪く
ぐり」神事は、台風十一号接近によ
る雨天のため実施せず、会館二階
にて三菱電機神戸製作所柳瀬総務課
長の挨拶・乾杯発声で直会を執り行
い、和やかな雰囲気の中、参列者は
神職手作りで無病息災のご利益ある
「蘇民将来茅の輪守」を授与されお

開きとした。

平成二十七年九月

新自動車整備工場竣工式と
神棚新設奉安式齋行

三十日、氏子内である遠矢浜町で
自動車整備工場の竣工式が斎行され
た。施主は総合リース業である芙蓉
総合リース(株)で、テナント営業する
ヤマトグループの車両整備・管理部
門を担っているヤマトオートワーク
ス(株)の神戸工場として、五月二十八
日に地鎮祭を斎行し、大和ハウス
工業(株)の設計・施工による、鉄骨
造平屋建の洗車場及び機械庫付約



玉串奉奠するヤマトオートワークス佐々木社長



竣工した新自動車整備神戸工場

一〇八一㎡の新自動車整備工場を建設竣工したものである。

当日は工場内に既に自動車整備設備機械等が設けられている為、構内にテントを設け祭場とし、施主始めヤマトオートワークスの佐々木社長、施工会社又関係自動車会社等約三十名の参列のもと各代表が玉串奉奠して今後の安全と社運隆昌を祈念した。

尚、竣工式に引き続き工場事務所に新設した神棚に、三石神社の神札を奉奠する神棚奉安修祓式が、神戸工場関係者参列のもと厳肅に斎行され、藤森工場長の玉串拝礼に合せ今後の安全と繁栄を祈念した。

平成二十七年十月

当社への参拝が
会社・社内報に掲載される

当社に隣接する三菱重工グループで、原子力プラントのアフターサービスの事業会社である原子力サービスエンジニアリング(株)では、会社に三石大神を奉斎する神棚を設けて常に安全と繁栄を祈願し、また当社にも年頭・安全週間等に参拝している。

七月の全国安全週間の三日、恒例の安全祈願参拝に併せ役員交代に伴う社業繁栄・安全祈願参拝が行われ、



役員交代に伴う新体制での
社業繁栄・安全祈願実施

7月3日(金)に役員・各部(室・G)長・従業員代表・安全衛生スタッフの総勢28名で当社西側にある三石神社において、「社業繁栄・安全祈願」が実施されました。当日は新体制の下、社長・従業員職代表による玉串奉納を行い、その後、宮司さんから「(全員で)心を一つにして取り組む」ようお話を頂きました。

NUSEC 社内報の記事

その記事が同社の十月一日発行「NUSEC」(No.97)に、「役員・各部(室・G)長・従業員代表・安全衛生スタッフの総勢二八名で当社西側にある三石神社において、「社業繁栄・安全祈願」が実施されました。当日は新体制の下、社長・従業員職代表による玉串奉納を行い、その後、宮司さんから「(全員で)心を一つにして取り組む」ようお話を頂きました」との記事と社殿等の写真も掲載された。

新会社設立に伴う安全繁栄祈願参拝

十三日、十月一日付で新会社として設立された三菱日立パワーシステムズ環境ソリューション(株)の会社設立奉告と安全繁栄祈願参拝が斎行された。

同社は三菱重工メカトロシステムズ(株)と(株)日立プラントコンストラクションがそれぞれ手掛けていた集塵装置事業を統合したもので、三菱日立パワーシステムズ(株)の子会社として、電気集塵装置を中心にバグフィルターその他の関連設備の設計・製造・販売・施工・アフターサービス事業を推進し、同事業の強化・拡大

を図るものである。

当日は神奈川県横浜市の本社から後藤副社長をはじめ、胸にMHのマークの入ったベージュ色新会社ユニホームを着用した当神戸事業所の中山地域統括・労組執行委員・神戸安全品証グループ長ら十五名が参拝



宮司を入れての参拝記念写真

し、宮司の新会社設立奉告と事業の一層の強化拡大並びに安全繁栄の祝詞奏上の後、前記代表者らが玉串奉奠拝礼して、今後の会社安全繁栄を祈願した。



銅板寄進案内板

趣意とお願い

現社殿は昭和三十八年に竣工して、五十五年となります。銅板の寿命は約五、六十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。

そのような事情により、皆様様に銅板寄進（一枚二千円）をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げます。案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方には重ねてのご案内となりました。ことをご了承下さい。

新生児命名

平成二十六年十一月から
平成二十七年十月まで

シリーズ

社務所・境内紹介

『日本画・寿富士』

当日本画は、平成五年に執り行われた当社平成の御修造事業に関係した三浦工務店ほかの会館建物工事業者一同から、同年十一月の竣工記念として贈呈奉納されたもので、額裏にも金文字で其の旨が記されている。絵画の本紙は、縦四一×横五三 cm（十号）の雲肌麻紙ドーサ引きパネルに、手前は新緑の山並み、バックには深緑の松樹林を配し、中央に金雲をたなびかせ、奥に冠雪した富士山を描く上品な落ち着きのある構



日本画・寿富士

図で、左下に虹菌（こうえん）の名と印が見られる。額は縦六十×横七十二、五 cm のステンレス高級額に納められている。額裏に画題等のシールがないが、虹菌が得意とする「寿富士」の真筆肉筆の一点であろう。

作者は、佐登美虹菌。虹菌は昭和十九年大阪生れの日本画家で、京都展を始め各展に入選し、天王寺文化人会員・日本民芸会員等に推挙され現在は無所属作家である。

本品は会館二階応接室に常時掲示されている。

シリーズ

書籍に見る三石さん

『日本全国 この御朱印が凄い！』

『第3集 都道府県網羅版』

御朱印とは、神仏習合であった江戸時代後期、寺社に写経を納めた際の証として寺社から頂いた受領印とする説がある。

数年前から御朱印による社寺との霊的繋がりが心の安らぎとなるなどの理由により、「御朱印女子」と呼ばれる御朱印集め参拝をする女性が

増え、御朱印ブームの火付け役となった。現在は御朱印帳という専用の帳面が用いられ、一冊で多くの社寺の朱印を集印することができ、後で見返す事により思い出になることも人気の一端であろう。

その御朱印帳には、印の他に社名・参拝日等が記されるので、お札と同等とされ、粗末に扱うべきものではなく、大切・丁寧に管理・保管して頂きたいものである。



本書は(株)ダイヤモンド・ビッグ社から「地球の歩き方・御朱印シリーズ06」として平成二十七年三月に発刊(定価一五〇〇円)されている。その「注目の御朱印近畿」の項に、御朱印帳に記している当社の御朱印が掲載されている。

さらに「数多くの神功皇后伝説が伝わる三石神社」と題され、「和田岬は神功皇后が三韓征伐から凱旋帰途、上陸した地。皇后は三つの石を立て神占いをした後、神々を祀りました。三石神社創建の由緒です。もともと神社は海岸の近くにありましたが、明治時代、三菱造船所の設立にともない現在地に移りました。御朱印には神功皇后の姿が押されています」、また「古くは雪気神と称していたが、文禄二(一五九三)年に三石神社と改称した。現在地に移転したのは明治三十九(一九〇六)年のこと」と簡単な由緒説明とともに、「拝殿前に立つ皇后の銅像を模した印です。このような印を押すようになったのは最近になってから。参拝の記念になればと思います」との宮司の取材コメントも記されている。

平成二十八年の神社神事・行事予定

- 一月 一日 歳日祭(初詣)
- 一月 三日 氏子崇敬者繁栄祈願祭
(坂上順子先生 一絃琴 鶴亀)
- 四月 十七日 猿田彦会総会
- 四月 二十四日 氏子会総会
- 五月 二十日 例大祭
- 二十一日 地区子供みこし巡幸
- 二十二日 神幸式(おわたり)
- 六月 十二日 氏子崇敬者親睦旅行
(和歌山・海南市)
- 七月 十七日 夏越祭
(琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり)
- 十八日 (茅の輪くぐり)
- 九月 二十二日 西宮神社産宮参り
- 十月 十六日 秋祭(天照皇大神祭)
- 十一月 中 七五三詣
- 各月 一日 月次祭

三石神社諸祈祷ご案内

【殿内個人祈祷】(殿内における各種祈祷)

- 家内安全、病氣平癒、安産、初宮詣、七五三詣、学業成就、厄除、交通安全、その他

【会社・事業所安全繁栄祈祷】

(会社・事業所団体祈祷は事前

ご予約願います)
【出張祭典】(諸準備の為、事前ご予約願います)

- 起工・地鎮祭、上棟式、竣工式、入居清祓式、神棚祭、各種安全祈願祭、その他

印刷所
(有)前川企画印刷
神戸市兵庫区永沢町三丁目三十一
TEL (〇七八) 五七七二四八八
FAX (〇七八) 五七七七三三〇